

FITELnet-E シリーズ ファームウェア拡張のお知らせ

このたびは、FITELnet-E シリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

今回お買い上げいただきました FITELnet-E シリーズのファームウェアでは、以下の機能がサポートされています。

- ・ マイライン対応機能
- ・ 簡易 DNS 機能
- ・ マルチルーティング機能
- ・ RIP2 対応
- ・ RIP ユニキャスト送信機能
- ・ 冗長機能拡張
- ・ 設定の複製機能
- ・ NAT 機能拡張
- ・ DHCP サーバリース期限設定
- ・ 自局発信パケットの送信元 IP アドレス指定
- ・ VLOG での SYSLOG 送信時に、自動的に ISDN 回線を接続するかどうかの設定
- ・ フレッツ ISDN 接続設定

これらの機能につきましては、取扱説明書に関連する記載がありませんので、この資料を参照し、設定 / 運用を行ってください。

1. マイライン対応機能

NTT グループよりサービスが提供される「マイラインサービス」に対応いたしました。マイラインプラス契約をしている場合は、固定優先契約された事業者以外の識別番号を付加してダイヤルした場合でも固定契約された事業者経由で接続します。

その場合、前面ディスプレイには「マイラインプラス/00**にハッシンシテイマス」(**00:正しい識別番号)の表示(約5秒間)がされます。マイラインプラス契約時に、固定優先契約している事業者以外を使用する場合は、先頭に「122」を付加してダイヤルしてください。なお、この機能を使用するための特別な設定はありません。

2 . 簡易 DNS 機能

簡易 DNS 機能とは、本装置にあらかじめ DNS 情報を登録することにより、本装置を DNS の代用として使用することができます。

本装置の簡易 DNS 機能には、以下の 2 種類の設定があります。

2.1. ホスト名称と IP アドレスリストのリスト登録

ホスト名称と IP アドレスを IP の組み合わせを登録することができます。本装置宛に DNS 要求が来た場合、このリストを参照して応答します。

このリストに何も登録されていない場合や、リスト検索の結果、データが存在しない場合は、DNS 問い合わせパケットの中継により指定の DNS へ問い合わせます。

```
proxynshosts [add name=<hostName> addr=<IPaddress>
```

```
| delete [all | [name=<hostName>] [addr=<IPaddress>]]]
```

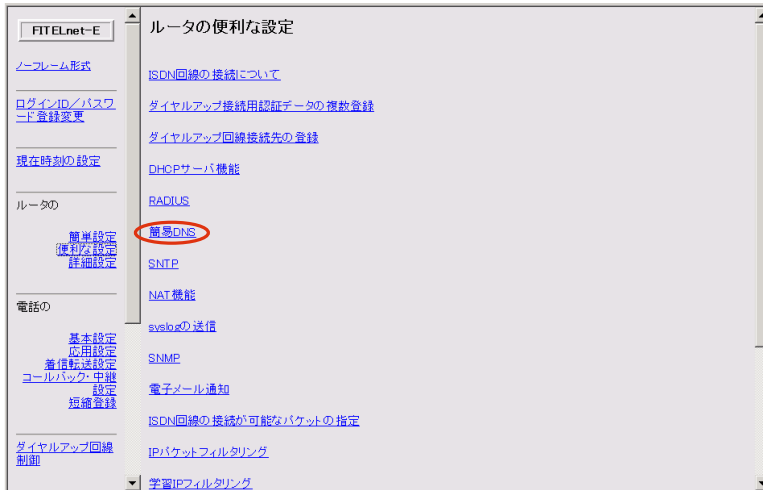
登録最大件数 16 件 (キャッシュ件数 : 64 件)

name	ホスト名称
addr	ホスト名称に対する IP アドレス

Web 設定画面による設定



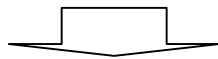
Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューの簡易 DNS をクリックします。



簡易 DNS 設定メニューのホスト名称と IP アドレスの登録をクリックします。



FITELnet-E

ホスト名称とIPアドレスの登録

ノブレーム形式

[ログインID/パスワード登録変更](#)

現在の時刻の設定

ルータの

[簡単設定](#)
[便利な設定](#)
[詳細設定](#)

電話の

[基本設定](#)
[応用設定](#)
[通信設定](#)
[コールバック/中継設定](#)
[短縮登録](#)

ダイヤルアップ回線制御

インフォメーション

簡易コマンド入力

ファイル転送

ページが表示されました

インターネット

削除	ホスト名称	IPアドレス			
1 <input type="checkbox"/>	host.furukawa.co.jp	192	168	10	1
2 <input type="checkbox"/>					
3 <input type="checkbox"/>					
4 <input type="checkbox"/>					
5 <input type="checkbox"/>					
6 <input type="checkbox"/>					
7 <input type="checkbox"/>					
8 <input type="checkbox"/>					
9 <input type="checkbox"/>					
10 <input type="checkbox"/>					
11 <input type="checkbox"/>					
12 <input type="checkbox"/>					
13 <input type="checkbox"/>					
14 <input type="checkbox"/>					
15 <input type="checkbox"/>					
16 <input type="checkbox"/>					

クリア

[トップメニューへ](#)

ホスト名称と IP アドレスの登録画面の各項目を設定後送信をクリックします。以上で、Web 設定によるホスト名称と IP アドレスの登録は終了です。

2.2. ドメイン名称と DNS IP アドレスのリスト登録

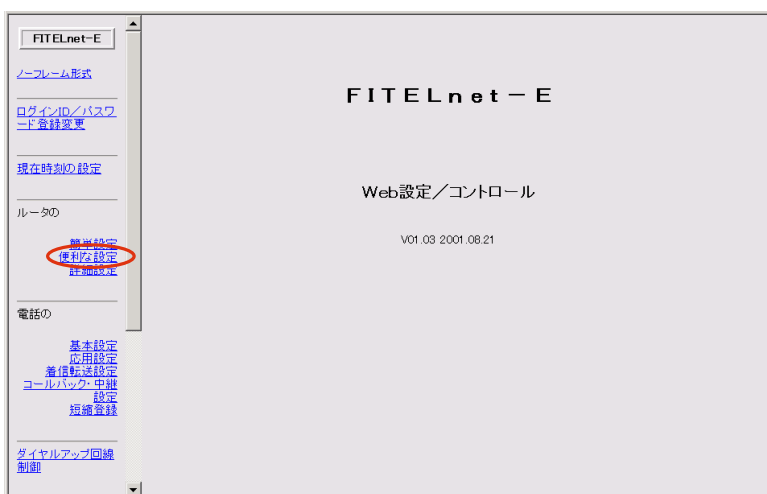
ドメイン名称とそのドメイン名称に対応する DNS IP アドレスを登録することができます。DNS 要求パケットにおいて、ホスト名からアドレスを参照する場合、ここで登録したリストにしたがい DNS 登録されたサーバに問い合わせます。ホスト名にドメイン名が付加されていない場合、DNS に対して問い合わせを行います。

```
proxymdnsserver [add server=<IPaddress> domain=<domainName>
| delete [all | [server=<IPaddress>] [domain=<domainName>]]]
```

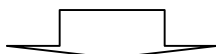
登録最大件数 8 件

server	DNS IP アドレス
domain	DNS に対応するドメイン名称

Web 設定画面による設定

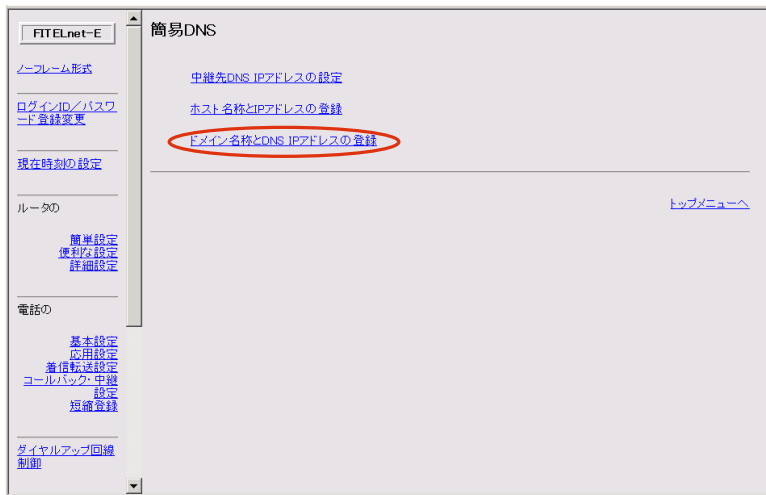


Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューの**簡単 DNS** をクリックします。





簡易 DNS 設定メニューのドメイン名称と DNS IP アドレスの登録をクリックします。



ドメイン名称と DNS IP アドレスの登録画面の各項目を設定後送信をクリックします。以上で、Web設定によるドメイン名称とDNS IPアドレスの登録は終了です。

3 . マルチルーティング機能

マルチルーティング機能を使用することにより、以下のルーティングを行うことができます。

- ・送信先アプリケーションに応じて中継先を変更する。（宛先ポートルーティング）
- ・送信元端末によって中継先を変更する。（送信元アドレスルーティング）

なお、これらのルーティングの送信元端末の判断には中継パケットの送信元 IP アドレス、送信先アプリケーションは中継パケットの宛先ポート番号より認証します。

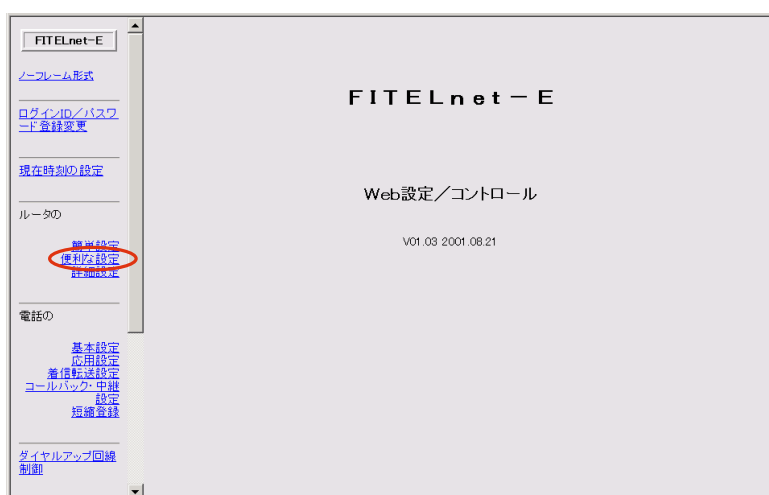
上記2つのルーティング制御は、併用することができます。

3.1 マルチルーティング機能 on/off の設定

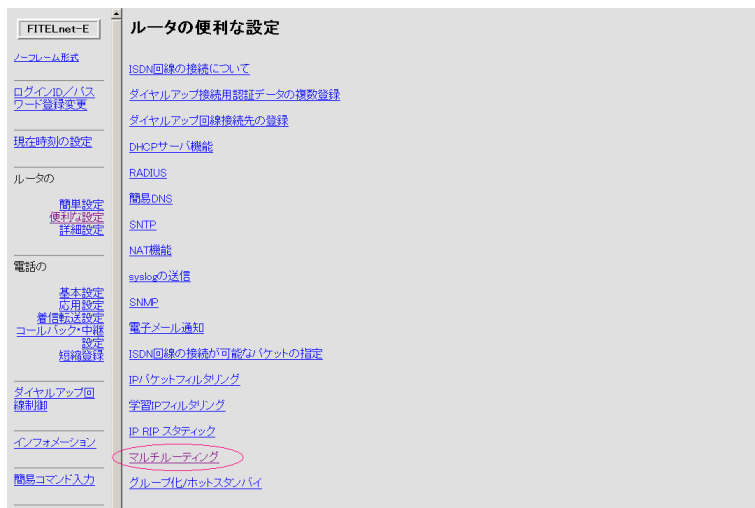
multiroute [on|off]

on/off	マルチルーティング機能を使用する/しない。
--------	-----------------------

Web 設定画面による設定



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューのマルチルーティングをクリックします。



マルチルーティングを使用するかどうかをチェックします。

3.2 マルチルーティングスタティックデータの設定

マルチルーティング制御を行うパケットと、中継先のエントリを設定します。

複数のエントリに一致する場合で、`preference` が同じになってしまった場合は、データを廃棄しエラーログが書き込まれます。

```

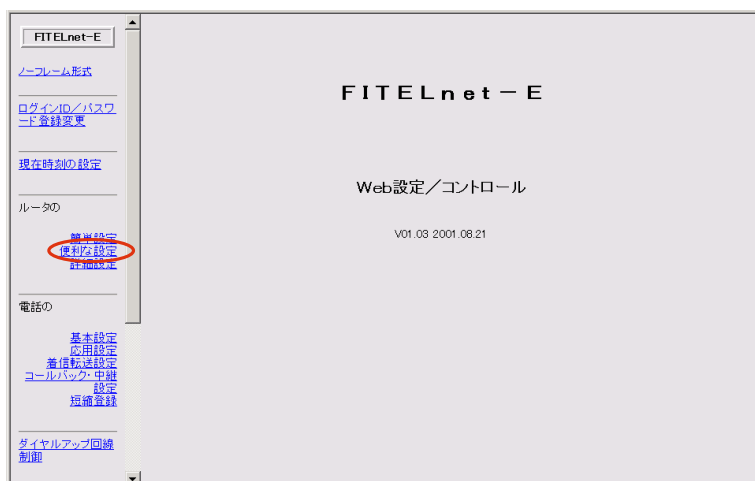
multirotestatic {add src=<IPaddress>[,<addressMask>]
                  [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                  {nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
                    next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}}
                  [preference=<preference>]
| delete [all][ seq=<id>][src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
          [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
          [nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
            next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}}
          [preference=<preference>]
| set seq=<id> [src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
              [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
              [nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
                next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}}
              [preference=<preference>]}

```

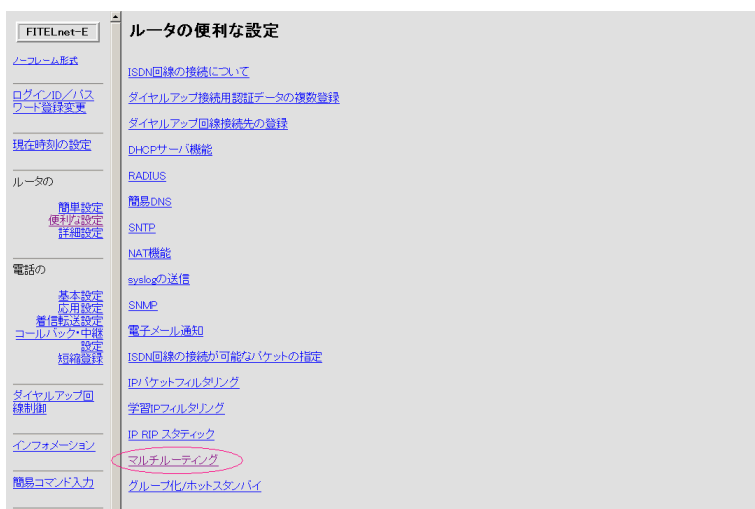
登録最大件数 32 件

add/delete	スタティックデータの登録/削除
set	スタティックデータの上書き
seq	スタティックデータを上書き/削除する際にレコード番号を指定する。
src=<IPaddress> [,<addressMask>]	スタティックに指定する送信元 IP アドレスの指定
dstport=<StartPort> [,<EndPort>]	スタティックに指定する宛先ポート番号の指定
nexthop={<IPaddress> <targetname>}	IP アドレス/ターゲット中継先経路の指定
next if={hsd fr isdn1 isdn2 async dp}	インタフェース中継先経路の指定
preference= <preference >	同一送信元からの中継経路が複数存在する場合の優先度を設定します。 設定範囲：0～31 工場出荷時：31

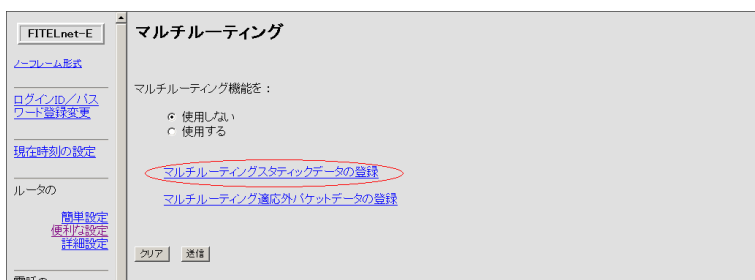
Web 設定画面による設定



Web 設定画面の便利な設定をクリックします。



ルータの便利な設定メニューのマルチルーティングをクリックします。



マルチルーティングスタティックデータの登録をクリックします。



マルチルーティングスタティックデータを登録します

3.3 機能適応外パケットデータの設定

ここで指定したパケットは、マルチルーティング機能を使用せず、通常のルーティングテーブルにしたがい中継します。

```

multirouteexclusive {add src=<IPAddress>[,<addressMask>]
                                [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                        | delete [all] [seq=<id>][src=<IPAddress>[,<addressMask>]
                                [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                        | set seq=<id> [src=<IPAddress>[,<addressMask>]
                                [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]}]

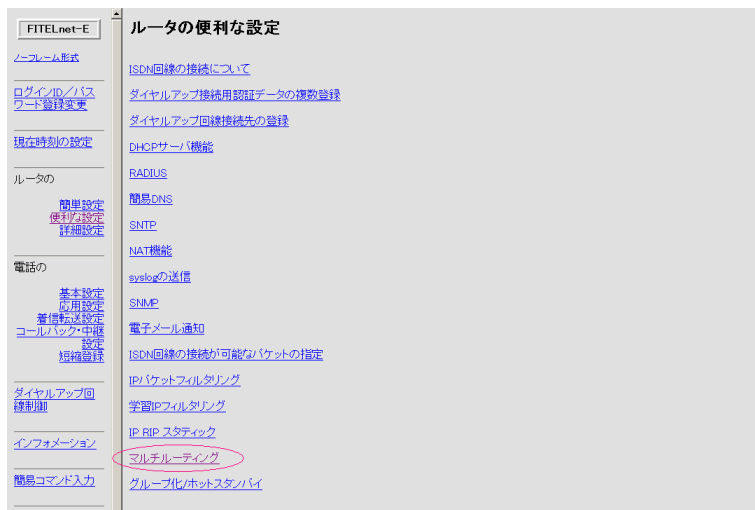
```

登録最大件数 16 件

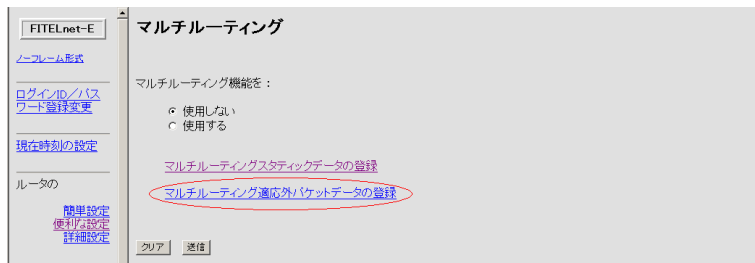
add/delete	適用外パケットデータの登録/削除
set	適用外パケットデータの上書き
seq	適用外パケットデータを上書き/削除する際にレコード番号を指定する。
src=<IPAddress> [,<addressMask>]	適用外パケットの送信元 IP アドレスの指定
dstport=<StartPort> [,<EndPort>]	適用外パケットの宛先ポート番号の指定

Web 設定画面による設定

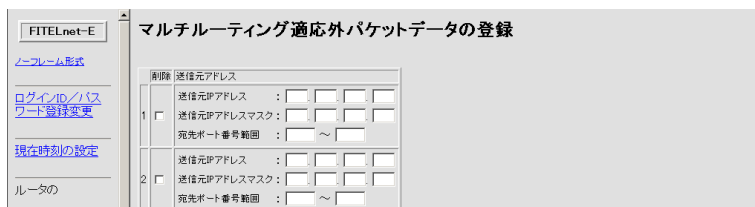
Web 設定画面の便利な設定をクリックします。



ルータの便利な設定メニューのマルチルーティングをクリックします。



マルチルーティング適応外パケットデータの登録をクリックします。



マルチルーティング適応外パケットデータを登録します

4 . RIP2 対応

RIP2 の送受信ができるようになりました。(従来はRIP1のみ)

rtcontrol コマンドで、RIP2 の送受信を行います。

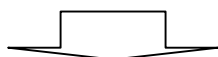
```
rtcontrol [[ip] [{lan|hsd|fr|isdn1|isdn2|async}
            [sendinterval[={<sendinterval>|off}]]
            [send[={rip1|rip2|off}]] [recv[={rip1|rip2|rip1rip2|off}]]
            [metric=<metric>] [ageout[={<ageouttime>|off}]]]]
            [rip2password=<password>]
```

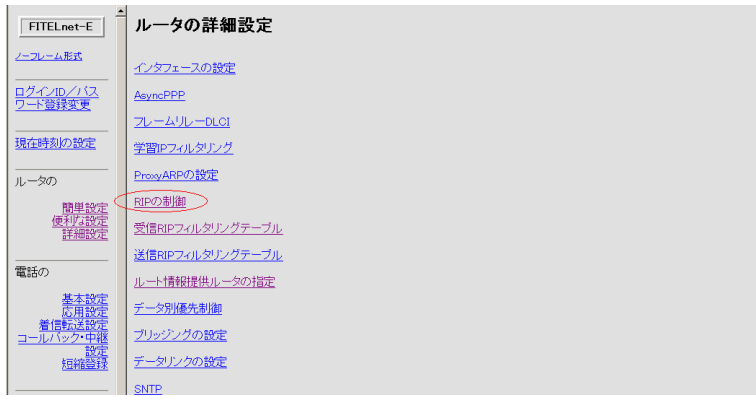
send[={rip1 rip2 off}]	送信するRIPのバージョンを指定します。「off」を指定した場合は、RIPを送信しません。 設定範囲: rip1, rip2, off 工場出荷時: lan=on, その他=off
recv[={rip1 rip2 rip1rip2 off}]	受信するRIPのバージョンを指定します。「off」を指定した場合は、RIPを受信しません。「rip1rip2」を指定した場合は、どちらのバージョンも受信します。 設定範囲: rip1, rip2, rip1rip2, off 工場出荷時: lan=on, その他=off
rip2password=<password>	RIP2を送信/受信する際のパスワードを設定します。 設定範囲: 最大16文字 工場出荷時: なし

Web 設定画面による設定

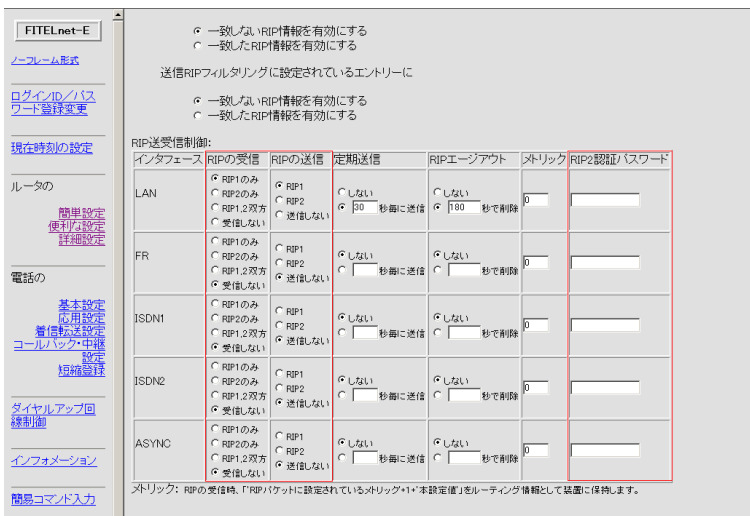


Web 設定画面の**詳細設定**をクリックします。





ルータの詳細設定メニューのRIPの制御をクリックします。



RIPの設定をします。

5 . RIP ユニキャスト送信機能

ユニキャスト送信機能を使用することにより、あらかじめ登録された宛先に対して RIP を送信することができます。

これにより、宛先や送信元が nexthop ではなくてもデータを送受信することが可能になります。ブロードキャスト宛ではない RIP を受信し、指定したアドレス宛に RIP を送信します。

本機能を使用するには、rtcontrol の設定で、RIP を送受信するインタフェースに設定しておく必要があります。

```
unicastrip [[on|off]
            [{add|set} seq=<seqno> [addr=<ipaddress>][if=[hsd|fr|isdn1|isdn2]]
            [srcaddr=[normal||lanaddr]]]
            |[delete {all|seq=<seqno>}]]
```

登録最大件数 8 件

on/off	ユニキャスト RIP の送受信をする/しない。 工場出荷時 : off
add/set/delete	ユニキャスト RIP を送信する宛先について、追加/修正/削除する。
seq	ユニキャスト RIP を送信する宛先について、追加/修正/削除する際にレコード番号を指定する。
addr	ユニキャスト RIP を送信する宛先の IP アドレスを設定する。
if	ユニキャスト RIP を送信するインタフェースを指定する。 指定できるインタフェースは次のとおり。hsd, fr, isdn1, isdn2
srcaddr	ユニキャスト RIP を送信する際、ソースアドレスを lan のアドレスを、 指定する (lanaddr) / しない (normal)。 工場出荷時 : normal

6 . 冗長機能拡張

Layer3 監視機能を ISDN 回線で使用することができるようになりました。

wan コマンドで、dual (ISDN で 2 回線使用して通信する) 設定にして、Layer3 監視機能を設定してください。

これにより、フレッツ ISDN での常時接続回線使用時の冗長性の向上が図れます。

7 . 設定の複製機能

設定の複製を簡単に行える機能をサポートしました。

例えば、1 台の装置を設定し、似たような設定を他の装置に行うような場合に、設定された装置の情報をコピーし、別の装置にペーストしてから設定を変更するという運用が簡単に行えます。

複製元の装置のコンソール（コンフィグレーションモード）にて、display コマンドを実行し、出力された結果をパソコンのコピー機能を利用して「コピー」します。
テキストファイルにペーストして保存します。

複製する側の装置のコンソール画面で、コンフィグレーションモードに移行します。

「paramclear」と入力し、リターンを押します。

で保存したテキストファイルを、複製する側装置に転送 します。

以上の手順で、設定の複製ができます。

Hypertrm では「テキストファイルの転送」にて、転送します。

コンソールの設定で、行のディレイ時間（待ち時間）を 250ms 以上に設定してください。

Hypertrm では、「ファイル」「プロパティ」「設定タブ」「ASCII 設定」で設定できます。

8 . NAT 機能拡張

8 . 1 インタフェース毎の NAT 制御設定

インタフェース毎に NAT 機能を適用することができるようになりました。この機能拡張により、2ヶ所の ISP と契約していて、片方が端末型、もう片方が LAN 型で契約しているような場合に、端末型の方は NAT+を使用し、LAN 型の方には NAT を使用することができるようになりました。

```
nat [group=<Group No.>] [nat|natp|off] [if={ [hsd|fr], isdn1, isdn2}]  
    [t1=<min>] [t2=<min>] [t3=<min>] [t4=<min>]  
    [t5=<min>] [t6=<min>] [t7=<min>]
```

nat コマンド以外に、natrange、natstatic、natnotrans、natplusstatic、natport のコマンドにパラメータ（group=<Group No.>）が追加されています。

group=<Group No.>	NAT 機能を適用するグループを番号で指定します。 設定範囲：1～4
-------------------	---------------------------------------

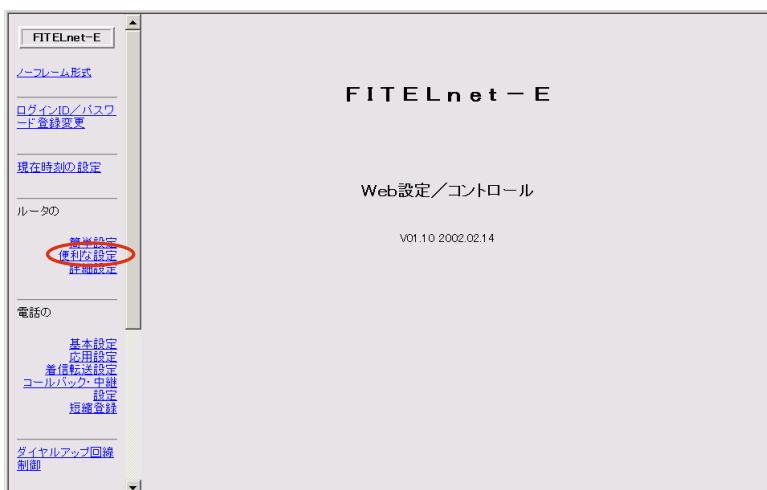
設定例

ISDN#1 で NAT+、ISDN#2 で NAT する場合

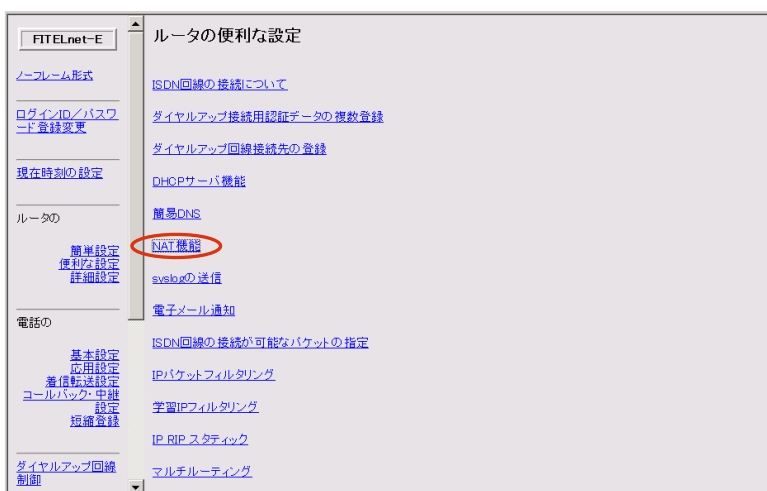
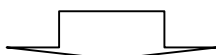
conf#nat group=1 natp if=isdn1 conf#nat group=2 nat if=isdn2 以降、各コマンドの group1 および group2 を必要に応じて設定する
--

NAT の設定がされている装置をアップデートした場合、従来の設定は group1 として動作します。

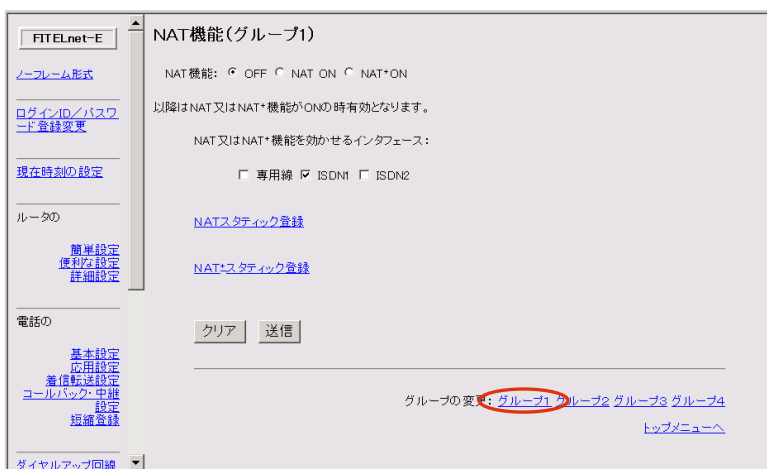
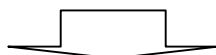
Web 設定画面による設定



Web 設定画面の便利な設定をクリックします。

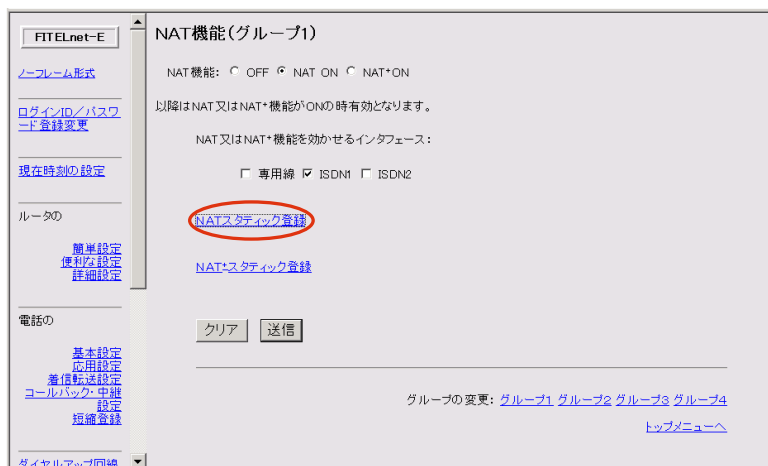


ルータの便利な設定メニューの NAT 機能をクリックします。



NAT 機能 設定メニューのグループ1をクリックします。複数のインタフェースに適用する場合は、それぞれグループ毎に分けて設定してください。





使用する NAT 機能と適用する
 インタフェース選択して
 使用する NAT 機能のリンク
 をクリックします。



IP アドレスを設定後、**送信**
 をクリックします。
 以上で、Web 設定による NAT
 機能の登録は終了です。

8.2 VPN ピア毎の NAT スタティック登録

VPN を使用する場合、NAT の設定は vpnpeer コマンドの natmode の設定にしていますが、VPN で NAT+/peernat/modeconfig とした場合にも、NAT スタティックを使うことができます。

```
natstatictable {[group=<Group No.>]
                {peeraddr=<peer ipaddress>|peername=<peer name>}
                [[add local=<ipaddress> global=<ipaddress>
                [delete {all|local=<ipaddress>|global=<ipaddress>}]]]
```



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



FITELnet-E

[ノーフレーム形式](#)

[ログインID/パスワード登録変更](#)

[現在時刻の設定](#)

ルータの

[簡単設定](#)
[便利な設定](#)
[詳細設定](#)

電話の

[基本設定](#)
[応用設定](#)
[着信転送設定](#)
[コールバック・中継設定](#)
[短縮登録](#)

[VPN制御](#)

[ダイヤルアップ回線制御](#)

[インフォメーション](#)

[簡易コマンド入力](#)

[ファイル転送](#)

ルータの便利な設定

[ISDN回線の接続について](#)

[ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録](#)

[ダイヤルアップ回線接続先の登録](#)

[DHCPサーバ機能](#)

[RADIUS](#)

[簡易DNS](#)

[SNTP](#)

[NAT機能](#)

[syslogの送信](#)

[SNMP](#)

[電子メール通知](#)

[ISDN回線の接続が可能なバケットの指定](#)

[IPバケットフィルタリング](#)

[学習IPフィルタリング](#)

[IP RIP スタティック](#)

[マルチルーティング](#)

[グループ化/ホットスタンバイ](#)

[VPNの設定](#)

ルータの便利な設定メニューのVPN機能をクリックします。



FITELnet-E

[ノーフレーム形式](#)

[ログインID/パスワード登録変更](#)

[現在時刻の設定](#)

ルータの

[簡単設定](#)
[便利な設定](#)
[詳細設定](#)

電話の

VPNの設定

VPN動作モード: OFF ON

以降はVPN動作モードがONの时有効となります。

[VPNログモードの登録](#)

[Phase1ポリシーの登録](#)

[Phase2ポリシーの登録](#)

[VPNピアの登録](#)

[VPN対象バケットの登録](#)

[VPN NATスタティック登録](#)

VPN 設定メニューのVPN NATスタティック登録をクリックします。

VPN ピア等の設定は先に行なっておいてください。



FITELnet-E

VPN NATスタティック登録 VPNピア選択

No. アドレス 相手名称 VPNNATモード

1		VPN-1	mode-config
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

現在の登録件数/最大登録件数: 0/128 1~, 17~, 33~

NAT スタティクを登録する VPN ピアを選択(番号をクリック)します。



FITELnet-E

VPN NATスタティック登録

No. アドレス 相手名称 VPNNATモード

No.	アドレス	相手名称	VPNNATモード
	LAN上の端末指定 IPアドレス	外部に見えるIPアドレス	
1		VPN-1	mode-config
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

現在の登録件数/最大登録件数: 0/128 1~, 17~, 33~

この VPN ピアとの通信で使用する NAT スタティクを登録します。
 以上で、Web 設定による NAT 機能の登録は終了です。

9 . DHCP サーバリース期限設定

DHCP による IP アドレスの貸し出し期限を設定できるようになりました。

```
dhcpcserver[[ off|on] [gateway={on|off}] [sendarpnum=<times>]
[arptimeout=<100msec>] [sendarpcount=<times>]
[allocateaddr=<IP address>] [allocatewidth=<number>]
[leasetime=<0:1-9999:59|infinity>]]
```

leasetime	IP アドレスの貸し出し期限を設定します。単位:分 工場出荷時 : infinity (無限) 設定範囲 : 0:1 ~ 9999:59, infinity
-----------	--

Web 設定画面による設定

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能: OFF ON

以降はDHCPサーバ機能がONの時有効となります。

配付IPアドレスの開始値:

LANインタフェースIPアドレスの次から開始する
 [] . [] . [] . [] の値から開始する

デフォルトゲートウェイの通知: しない する

ドメイン名称の通知: しない する
 通知するドメイン名称: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

DNSアドレスの通知: しない する
 DNSプライマリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
 DNSセカンダリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

WINSアドレスの通知: しない する
 WINSプライマリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
 WINSセカンダリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

リース期限:
 無期限リース
 期限付きリース [] 時間 [] 分 (範囲: 00時間1分~9999時間59分)

dhcpcinfo コマンドで、貸し出し残り時間を参照することができます。(下線部)

実行例

```
#dhcpcstat
s 00:00:86:56:8c:6a 192.168.0.2 0:54
S 00:00:86:56:8c:6b 192.168.0.254 infinity
#
```

10 . 自局発信パケットの送信元 IP アドレス指定

自局から発信する以下のパケットを送信する際、送信元 IP アドレスとして LAN の IP アドレスを指定できるようになりました。

- ・ SYSLOG パケット
- ・ SNMP トラップ
- ・ proxyDNS
- ・ PING

【SYSLOG パケットの指定】

```
syslogtable [[addr=<ipaddress>] [err={tlog|off}] [warning={elog|off}]  
            [info={alog,llog,vlog,vpnlog|off}] [facility=<no>]  
            [srcipaddr={normal|lanaddr}]]
```

srcipaddr	syslog を送信する際の送信元 IP アドレスを指定します。 normal:送信するインターフェースの IP アドレス lanaddr:LAN のアドレスを指定する。 工場出荷時:normal
-----------	---

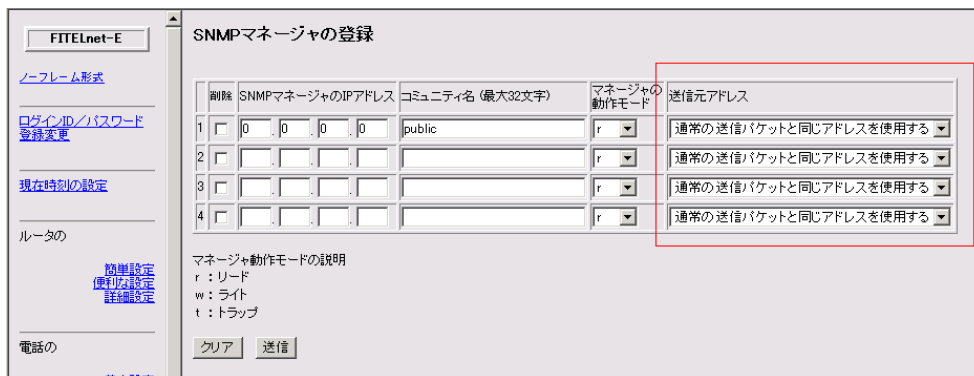
The screenshot shows the 'syslogの送信' (Syslog Transmission) configuration page. The left sidebar contains navigation links for 'FITElnet-E', 'ノーフレーム形式', 'ログインID/パスワード登録変更', '現在の時刻の設定', 'ルータの', '電話の', 'VPN制御', 'ダイヤルアップ回線制御', and 'インフォメーション'. The main content area is titled 'syslogの送信' and includes the following settings:

- syslogの送信: しない する
- 以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。
- syslogを受け取る端末のIPアドレス: 0 | 0 | 0 | 0
- tlog(errレベル)で送信: しない する
- elog(warningレベル)で送信: しない する
- llog(infoレベル)で送信: しない する
- alog(infoレベル)で送信: しない する
- vlog(infoレベル)で送信: しない する
- vpnlog(infoレベル)で送信: しない する
- ファシリティ値: LOCAL0
- 送信元アドレス:
 - LANのアドレスを使用する
 - 通常の送信パケットと同じアドレスを使用する
- vlogによるsyslogパケットを発呼契機とするか:
 - 発呼契機とする
 - 発呼契機としない

【SNMP トラップの指定】

```
manager [{add|set} <index>
        [addr=ipaddress] name=<community name> [mode={trw|rw|tr|r}]
        [srcipaddr={normal|lanaddr}]]
[delete {<index>|all}]]
```

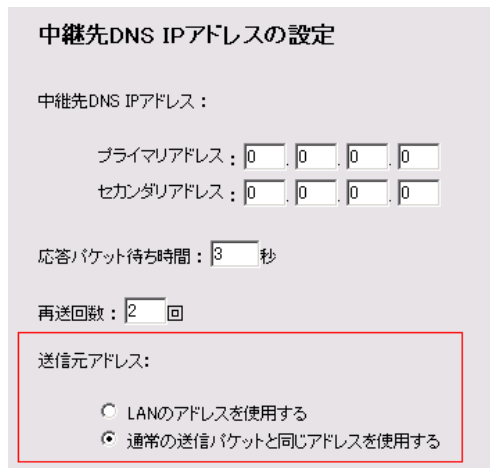
srcipaddr	SNMP トラップを送信する際の送信元 IP アドレスを指定します。 normal:送信するインタフェースの IP アドレス lanaddr:LAN のアドレスを指定する。 工場出荷時:normal
-----------	--



【proxyDNS の指定】

```
proxydns [nameserver ip=<address>[, <address>]] [srcipaddr=[normal|lanaddr]]
        [timeout=<sec>] [retry=<times>] [ageout=<min>]
```

srcipaddr	ProxyDNS 機能を使用する際に本装置から DNS サーバに送信するパケットの、送信元 IP アドレスを指定します。 normal:送信するインタフェースの IP アドレス lanaddr:LAN のアドレスを指定する。 工場出荷時:normal
-----------	--



【PING の指定】

ping <IP address> [lan]

[lan]	lan オプションをつけると、送信元アドレスに LAN アドレスをつけて送信します。
-------	--

1 1 . VLOG での SYSLOG 送信時に、自動的に ISDN 回線を接続するかどうかの設定

VLOG (イベントログ) の発行による SYSLOG パケットの送信時に、自動で ISDN 回線を接続するかどうかの設定ができるようになりました (従来は、SYSLOG パケットでは発信しない) 。この設定により、冗長構成時に経路が変更となったことを即座に通知することができます。ただし、この設定の場合、ISDN が繋がり放しになる可能性がありますので、注意してください。

syslogcontrol [on|off]
[autoconn={vlog|off}]

[autoconn={vlog off}]	SYSLOGの送信時に、自動的にISDN回線を接続するかどうかを設定します。 設定範囲 : vlog,off 工場出荷時 : off
-----------------------	--

The screenshot shows the configuration page for FITElnet-E. The left sidebar contains navigation links for various settings like 'ログインID/パスワード登録変更', '現在時刻の設定', 'ルータの', '電話の', 'VPN制御', 'ダイヤルアップ回線制御', and 'インフォメーション'. The main content area is titled 'syslogの送信' and contains the following settings:

- syslogの送信: しない する
- 以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。
- syslogを受け取る端末のIPアドレス: 0.0.0.0
- tlog(terrレベル)で送信: しない する
- elog(warningレベル)で送信: しない する
- llog(infoレベル)で送信: しない する
- alog(infoレベル)で送信: しない する
- vlog(infoレベル)で送信: しない する
- vpnlog(infoレベル)で送信: しない する
- ファシリティ値: LOCAL0
- 送信元アドレス:
 - LANのアドレスを使用する
 - 通常の送信パケットと同じアドレスを使用する
- vlogによるsyslogパケットを発呼契機とするか:
 - 発呼契機とする
 - 発呼契機としない

12. フレッツ ISDN 接続設定

設定する接続相手 (target) が、フレッツ ISDN 契約かどうかの設定が追加になりました。

```
target [{"add|set} name=<targetname>
      :
      :
      [type={flets|normal}]
```

type={flets normal}}	NTTのフレッツISDNに接続するかどうかを設定します。フレッツISDNに接続する場合はfletsを指定します。 設定範囲：flets, normal 工場出荷時：normal
----------------------	--

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス

	電話番号	サブアドレス
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>

next_gatewayとして接続する時の回線 インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

ご注意：相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい、また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして番番号チェックする

接続回数の制限：

しない する 回 (1~3600)

リミット動作時の発信許可： しない する

連続接続状態の監視：

しない する(連続 分まで接続可能)

リミット動作時の回線強制切断： しない する

PIAFS接続： しない する(32k) する(64kキャランティ方式) する(64kベストエフォート方式)

※ 注
NTT DoCoMo FHS の64kデータ通信はキャランティ方式(PIAFS 2.0 準拠)です。
DDI POCKET の64kデータ通信サービス (e-DATA64) はベストエフォート方式(PIAFS 2.1 準拠)です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースに「DP」を選択した時は、PIAFS接続の選択は「しない」となります。

コールバック：

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

タイプ： フレッツ契約 通常

130-B0314-AN01-H